

先の大戦から70年の月日が経ちました。この間、日本は戦争を  
ほうき放棄し、平和国家としての道を歩んできました。私たちは平和を  
きょうじゅ享受してきましたが、一方で戦争のひさんきおく悲惨な記憶は風化しつつありま  
す。再び過ちを繰り返さないためにも、戦後生まれの、戦争を知ら  
ない世代の平和意識の低下・きはくかけねん希薄化が懸念されるどころです。

この度、文集を作成するに当たり、戦争体験者のこうれいかきぐ高齢化が危惧さ  
れる中、22名もの方から手記をお寄せいただきました。中には自  
分たちこそが、戦争を語れる最後の世代であるという使命感に駆ら  
れて、初めて他人につらい体験を伝えるという方もいらっしゃいます。

平和への願いが込められた、この貴重な体験談が、読んだ人の心  
を動かし、戦争の悲惨さ、平和の大切さについて考えるきっかけと  
なれば幸いです。

平成27年6月

栃木市長 鈴木 俊美